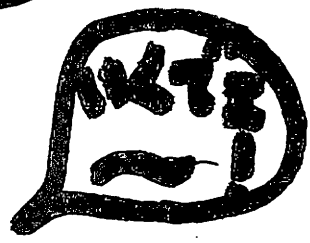


98 プル冬

冬合宿報告書



信大山岳会

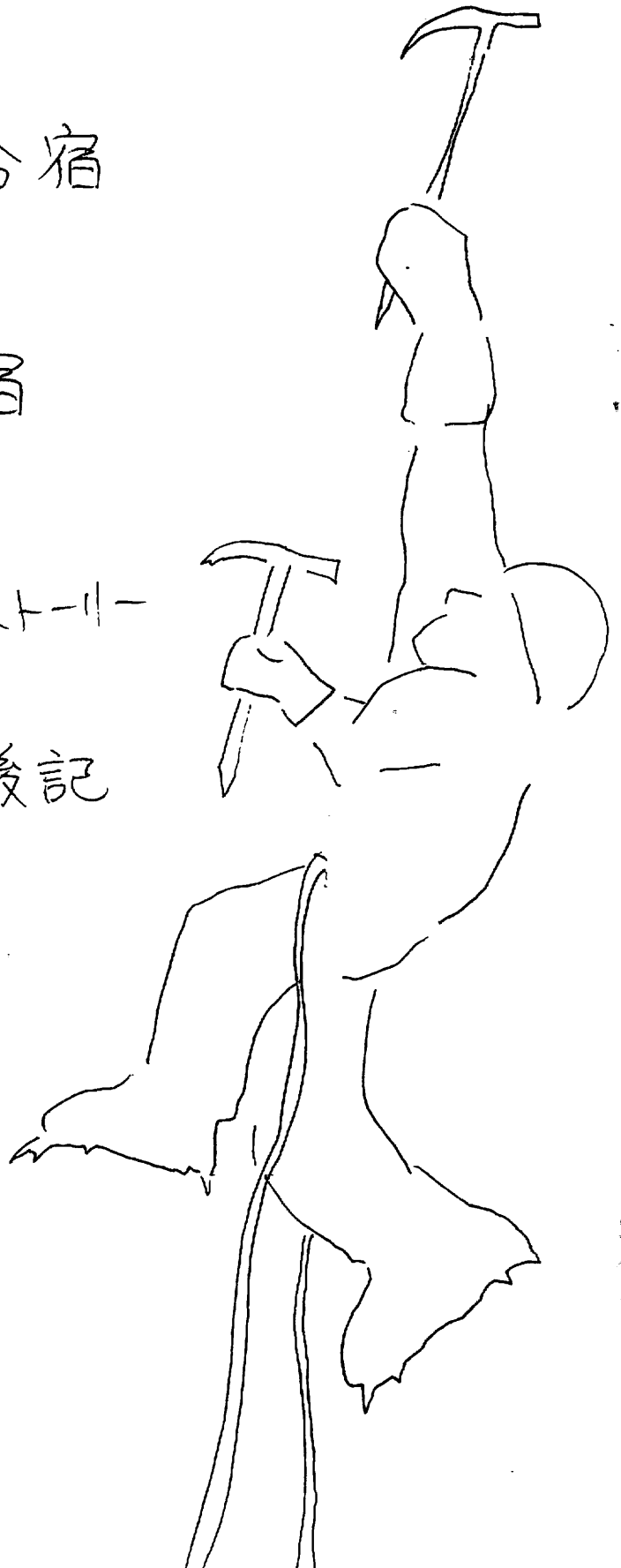
目次

P.2 ~ フォレ冬合宿

P.18 ~ 冬合宿

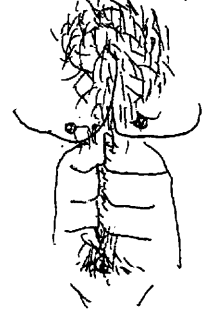
P.38 ~ 連載ストーリー

P.41 編集後記



ポルシ

ピート・サンフラス



又
二 彦

合宿

於：八尾根 11/27~29

プル冬合宿

11/27

- 9:00 スタート
- 9:50 丸山
- 10:55 下のカバ付
- 12:00 丸山
- 12:20 テニ場

予定では唐松山荘まで行くはずだったが、明日からの天気
がとやまると、丸山から降りて、フニニの旧やぐらで、ヒリヒリ
丸山ケルニの下のくぼ地に設営する予定になった。
テニ場まで30分。丸山からリーダー登りが、外はガスが
出たので消えて、丸山から丸い。夜景が一面に
見えるらしいので、午後でクソ寒いから、テニ場で
夜景を見るからクソ寒いだろう。

岸本

11/28

- 5:00 起床
- 9:10 天気回復
- 10:00 沈殿決定
- 13:00 おやつ
- 16:00 エssen

起きると、外はホワイトアウトだった。
10:00に沈殿決定すると、ダンロップの1号は
酒場になった。テニ場のなか、狗臭くなるほど。
午後からは雪崩、振りもやめた。その中で
エssen、そして寝る。いい経験だ。
いい1日でした。

かじほう

11/29

- 4:30 起床
- 6:30 丸山、B.C. 出発
- 8:40 唐松山頂上
- 10:20 丸山、B.C. 着
- 12:30 八方池山荘
- 14:30 ゴンドラ乗車

昨日とは違って、変わって晴天。唐松への
登りは、御来光と朝日に映える
白馬三山が見ることができ感動。
頂上から見た剣岳は壮観だった。
冬合宿ではアセンを忘れるというような
基本的なミスは絶対にしない。

松崎

エッセン

岸 本

GW合宿以来2度目のエッセン係となつたが、前回はエッセンの
 コア(核)ともいえるパミ缶を「忘れる」という大失態を演じた事もあり
 今回はその汚名返上をも含め、願望もあって「質」と「量」とい
 う、ひびく個人的な事柄を見事に両立させる快挙を成し遂げるこ
 は相反する二律も兼ねてなごう。以後エッセンを担当する人は今
 よもや反省することなごう。皆の腹と心を満たす素晴らしいエッセ
 ンのエッセンを見直らして皆の腹と心を満たす素晴らしいエッセ
 を考えてもらいたい。(一度ニ人エラソーな事を言いたが、た…)

(今後へのアドバイス)

- ・α米は最低2週間前に注文しないと手に入らない。
- ・乾物は、量も種類も「これでもか」というほど持って行くべし。
- ・冬はパミ缶はタッパーに入れる必要はない。
- ・食料はレーションも履めしも含めテントごと袋詰めにしておくと上で混乱が避けられてよい。

◇買い出し等、嫌な顔せず手伝ってくれた松本の人達に大感謝。
 これからもよろしく。岡本は毎回ご苦労さま。

装備反省

大木 ボード

- ・アライテントのインナーポールを持っていかなかった→風に弱い
- ・スリッパは一本では足りない。人数から考えて最低2本
- ・MSR炎上

原因① 白ガス入れすぎ 一年基本的なミスだな!!死ぬぞ!!

② ポンピングすぎなんだよ テメーラ!!

- ・竹ポール 1つばい → 準備不足
- ・7mm Fixロープ50mは応用がきかない。→ 25m×2にすれば
- ・冬山はおたまいらない。じやもじでOK (雪切り、まぜまぜ用)
 ↳ 予備食器でやれ

消費: xタ10本, 白ガス45L, 竹ポールx10個

失: 雪ラシx1, カラビナx1 → 誰か個装にまぎれてない?

↳ 撤収の時 → 夜、使い終わったら装備袋に入れる

医療の反省と感想

岡本

医療にかんして今まであまり興味がなかつたもので、何をもていけばよいのかよくわからなくて適当に持っていました。また医療についての合宿の記録が全然のこっていないので、何をもていって何か足りなかつた、何をつからたとか書いてほしい。今回は何も使わず、血のよくし劑かほしいとの意見があった。

気象の反省と感想

今回天気圖を一カ月前のものから岸本に取ってあいてもらってあったが、それを余裕を持って事前に受け取っておくべきだった。山の中では、あれほどはあまりとホーンホーンと変な子天気に接することかできて良い経験になった。

70L冬会計

Date

No.

会計
収入
合宿費 1万円 × 15人
150000

支出 124,084

食費	74,872
装備	9,827
薬	2,318
ホテル	19,780
駐車場	5,000
ガス代	11,500 (2000円 × 5台 + ヤマコ代)

使途不明金 987

残金 2,5916

係の反省と感想 会計・渉外 日高

[反省]

- ・ゴンドラの乗り継ぎの時、先頭にて金を払うのとかを、最初にとりかべたのに、一番最後にて、乗り継ぎの時他のメンバーを待たせてしまった。
- ・17トなどのことを考えていた、車の手配を後まわしにしていた、車庫の持ち主に連絡するのが遅れた。この季節、タイヤ交換の事も好の、一番最初に連絡すべきだった。
- ・松本での集金を誰か松本人に頼むのを忘れていた。ホンダがやらせてくれた。ありがとう、~~松本太郎~~

[感想]。駐車場の場所をはあくところ。今回は場所がいまいだった。

渉外は下準備が大切だ。調べる事が多い、変更事項があるかも知れないので、早めにとりかべ、早寝早起の事はないです。

早めに調べ、最終的に確認という形でやりかまちはないです。

早め早めの会計・渉外。が良い。

7L冬を終えて (7L冬5L)
は9月 1/8/9月

3日間の短い期間だったが、初めての一年生にはよい冬山体験になったと思う。冬山は生活が基本であり、その基盤が崩れると一気に行動技術が高くても危険にさらされるといって過言にあらずない。

これから正直なところ3年生も結構な負担があると思う。2月から自分達も先頭と立つことを意識して冬山合宿に臨んでほしい。あと学年内のまとまりや、役割分担がほしい。2年は技術不足。全員入れてFix隊に出してくれ。

個人的にも得ると思うので、思っているだけのこと。次の合宿に生かしたい。

72冬合宿

花谷 泰広

(反省)

新人合宿以来、山から半年以上も遠ざかっており、合宿も久しぶりだったので、上級生として言うべき時に適切な事と言えなかった。また、今回はリーダーやサブリーダーといった重い責任を負っている合宿ではなかった。やや気が抜けてしまっていた。今回は天気が良く月と悪い日は、雪と日とで、動けた日は2日もぶらぶら陽気の日だった。これによって隊全体の気がゆるみがあった。冬合宿では絶対あり得ない事である。自分のモチベーションは今までにないくらいMAXなので冬合宿ではそれにふさわしい行動を心がけていた。

(感想)

久しぶりの合宿は楽しかった。今回感じた事は2、3年生がとてお頼りしくなったことだ。特に3年生には「全て任せようOK」という感じもした。1年たったのにここまで変わるのかと感心した。あと、今回このルートと計画したのは二度目だが、また17日途中退宿だった。17日になったり互いに登れるのやら……。志向の違いはありませぬ。仲間の大切さを感じた合宿だった。

3年 川井

。上級生の割合が多い合宿だった。去年上級生1人か1年生2人を見るという状況に比べると精神的に楽。体力的にもかなり余裕がある。これまでの合宿の中で最も余裕があった。これは私だけでなく他の上級生も同じ事が言えるのではないが。

ただその余裕が余分の力を生む。隊全体の空気にたるみがあったのはそのためだろう。7月冬はその年の冬への第1歩。行事も最初が大切。特に1年にとっては大事な合宿という事をもっと意識して上級生は行動するべき。

1つ1つの事をしっかりしないで必ずホロロが出る。冬山はホロロが出てからでは遅い。しっかりした基礎がなければ飛ぶくもないし、最悪事故をまねく。基礎がため。オレにはもともと必要だなんて思った。

感想

冬山はいい。きびしいけど。

本物の喜びを感じるためにはそれなりの資格が必要になる。もう少し上の資格を持つてもいいかなと思った。

亮介さんがこんな事を言っていた。

「この景色ももう見収めか。」

もうそんな時期にきている。

この代もなかなかいい味が出てきた。

冬合宿がやれ楽しみでもある。

フレス冬

感想と反省

中島辰哉

(感想) 予定コースをトレースできなくて残念だった。
八方屋根は悪天時、ルートファインディングを
しっかりしなければ"迷いそう"だ。
当日は快晴で最高だった。
下山時のスキー場は別世界だった。

(反省) 体力不足。アグレッシブなペース。
この2つを特に痛感した。
やはり何か山に対する姿勢がなっていない
ような気がする。しつめをつけようと思う。
私生活の面でもしっかりしている山に入る
ので、所々で"アツ"である。
上級生として、相変わらず全体が見られたい。
決定力不足である。



プレ冬合宿の反省

今回隊をまとめるリーダーを初めて勤めることになりましたがこれほどややこしく、かつ頭の機転をきかされるとはおもわなかった。仕事を忘れること多々、意志を伝えられていないことこれまた多し。

今思うに、僕はリーダーとしてどうであったかということだが、力不足と言わざるを得なかった。(理想を語っても仕方ないと言われるかもしれないが、僕は理想がないと妥協すべき点も見つけることが出来ない。と思っているので以下に理想じみた事も述べる。)

反省するべき点としては、隊をうまくまとめられただろうか。指示は的確であっただろうか。全体を常に把握していただろうか。いつもとは少し違った新しいことを得ることの出来るような特色と全学年が満足できるような合宿であっただろうか。等が考えられる。それらについて以下にリーダー会で出た反省を含め、箇条書きで反省事項を書こうと思う。

- ・雪崩斜面の通過時に行動を差別化する指示が的確に出せなかった。
- ・雪洞体験は全員にさせるべきだった。
- ・前々から地上高層ともに天気図に目を通しておくべきだった。
- ・設営時にブロックを積む事に関して指示を統一していなかった。
- ・事前にコンパシングの技術を説明したが実地で使用させなかった。使用しなくてもいい状態ではあったが、練習させるべきだった。
- ・隊を分けるときはすべての隊に無線を持たせて各パーティが全体を把握できるようにしなくてはならない。
- ・弱層テストは習慣づける。
- ・もっと周りに協力を求めるべきであった(リーダーの仕事すべて一人でやるには重すぎる)。
- ・スキー場で一年を見る上級生を決めなかったのは最後まで目を離さない、事故を起こさないという点から問題であった。
- ・下山時に日高が遅れたが、リーダーは常に本隊にいるべきで、誰かに交代するべきだった。
- ・指示は早めに出す(出すのが直前であった。)
- ・後ろにいると指示が出しにくいのでリーダーは(隊が大きいときは)真ん中にいてもいいと思った。

(野田 聡)

例年通り 今年の70レ冬合宿も成功せよに終わった。しかし、唐松岳のピークを踏めたことは、1年生にとっても、土曜日である我々にとっても大変意義のあることだろう。70レ冬は授業期間中と限られた時間の中での合宿であるから、縦走と高望みせよのピークハントに終始してもよいと思う。それだけでなく、コースさえ選ぶすれば、1年生に冬合宿前の冬山基礎をばっちり叩きこめるはずだし、その余裕も必ずと生まれてくるはずだ。ピークを踏める可能性も高まる。

- ・ 今回は1度きりで終わったfix隊隊長に選ばれるという名誉を預ったが、2年生には技術的にも自信を持ち、気力かみみぎらっているせいか、彼らの自主的行動を抑えるのに苦労した。監督の不行き通きはらぬよう気をつけたつもりであったが、彼らの自主的行動を阻害せぬよう、目を配らせるのがいかに困難であるか実感できた。やはり、行き過ぎた行動かどうかを判断するには技術と自信を持ってしかたないであろう。

70レ冬合宿 反省と感想

2年 大木 信介

風邪をひいていた... それも今月上旬からだ。それでも毎週山に行き、直るわけない。馬力もでない、人にもうつる、最低だ。みなさん、かぜはうつりませんでしたか？ 反省しています。

やっぱり冬山だよなあ。燃えています... ね、燃えたぞっています。冬合宿 がんばりましょう。

反省と感想

岡本

- ・ 1年生への指示が足りない。夏合宿と同じ反省がない。次には同じ反省をしないようにしたい。また冬山に関して炭検か所、ルート等わからないことか、为いくせに、心難に感じている。と考えている自分か、なせけない。

感想としては、1年間の冬山で、1沈して、ピークふんで、なかなか密度か濃かった。

学バニとの殆い合宿であった。冷静に考えれば大学に入り、山に登り始めてまだ2年目であるから学バニとがまだたくさんあるのは当たり前なのだが、少々自身を過信、自惚れていたことに最近、気づいた。僕の個人的性質もあるかもしれないが、総じて2年生にはこの傾向が強いと思う。しかし、行き過ぎは悪いにしてもそれが2年生らしさであって、少しくらい、そんな所があっていいのではと、今は思う。「そんなに背のびしたって仕方がない」と言われたら、僕は「背のびをしなきて手に入らないものがあるんだ」と答えたい。冬は訪れも過ぎるのも早い。たくさん山の山に登り、たくさんの本を読み己も磨きたい。来たるべき春に与えて…。

「若さ、若さ、って何だ？ 振り向かれないことさ。
愛、って何だ？ ためらぬれないことさ。」(宇留利専科H3のオールドインターマヨリ)

個人の反省と感想

嶋弘次

[反省]

- ・ 長い期間山に入っていたが、^{お天候}風邪をひいたのもあると思うが、体調が悪かった。一週間前くらいまで風邪をひいていた。など、下界での体調管理が良くなかった。
- ・ 下山してきて、はじめてわかった事だが、雪崩もを忘れていた。BOXでバックパックをしていて、その時に落としたまま気づかなくなっていたが、これは太りに反省すべき事である。今後、絶対ないようにします。
- ・ fixの手順をわかっていなかった。復習はいちおうしたんだが、足りなかった。~~事~~

[感想]

久し振りの冬山は美しかった。あのだけの雲海は始めて見た。(と思う) ホットスポットは初めて体験した。空と地面の境い目がわからず、便所に行くのさえ恐かった。

反省と感想

三架三天遊

リーダー会で出たことを、^{お天候}発言をあまりしない大きな理由はやはり経験に裏打ちされた自信がそれだけについていないというところだと思う。これが何をいうことをもっと意識して、もっといろいろ考えながら山に入るように気をつける。

ああいうホカホカ陽気だと上級生は気がゆるむのも仕方ないと思うが、やはりしめとこころはキチンとしめとこころきたった。ケミックスについていなかった。 -13-
20日の景色は最高だった。

フシ冬合宿の反省と感想

。反省

装備などの忘れ物はなかった。しかし、アイゼン、ワカンをつける時に、オーバー手袋を外したりで、時間がかかった。また全体的に、行動が遅かったように思える。その点はこれから冬山に慣れていきたい。

。感想

初めての冬山ということで、行く前は、新人合宿のような緊張感があった。そのため、とてもやる気があった。初めてワカンをはいた時、南国少年の自分は、感動してほった。また岸本さんのエッセンは、「質より量」というスローガンだったが、質も量も good だった。

そして何より、雪洞で寝たことが、この合宿での一番の思い出だ。最初は天井が落ちるのではないかとという不安があった。寝ている時も、時々目が覚めた。しかし、初めての冬山で雪洞で生活できたことは、とてもいい経験になったと思う。

1年 梶原 恵

アル冬合宿の反省・感想

松寿 林太郎

反省

- ・アイゼンをテン場に忘れた。ガチャの連結はカラビナを使ってしかりやる。
- ・休憩中、素手になる。厚手から薄手の手袋に替えるなど細目に着替えなくてはと思った。冬合宿へ備えての様々な面での練習であるという意識が欠けていた。
- ・テン場も出発する際、最後にテントから出て入り口をしかり締めていなかった。今回の合宿は自分自身かなり集中力に欠けていたと感じた。こんなことでは厳冬期の冬山では通用しないと感じた。

感想 冬の山は美しかった。雪で覆われた山々は圧倒的な威圧感を感じさせた。三日目の朝の景色は思い出に残るものだった。

(反省)

- ・ テント設営の際等に気軽に物を外へ置かないようにくせをつけた。
- ・ 天候の変化に応じて体温調節は細めにやるようにしたい。汗をかいてしまうことがあった。
- ・ 下りの際のピッケルの持ち方に注意する。
- ・ エッセン中は、けしがしニにあるか等を把握し、分別しやすい所に置いておく。
- ・ MVRのボトルに自ガスを入れすぎない。
- ・ 雪崩斜面では注意しつつも、す早く抜けるようにする。

他にも細かい事は色々あるが、こうしてみても、基本的な事はカリなので、冬合宿では、しっかりと注意して行動したい。後、自分は今うちろと、地図を細めに見て、現在地を確認、くせをつけた方が、いいと思った。

(感想)

ハケ岳に行った時に、すでに雪が降っていたが、やはりプシ冬の方が冬山という感じがした。積雪量が比へものにならなかった。(ハケ岳では寒さと強風を体験した) 雪には慣れているものの、雪山の上を歩くのはとても新鮮な感じがした。今回の合宿では、2日目の決殺日を除いて、視界も良好で、とても楽しめた。自分達で足跡をつけながら登っていくのはとても面白かったし、3日目の日の出の風景にはまろっていました。天候が悪くなると厳しいものになったと感じたが、やはり冬山の楽しみを実感できたので、いい合宿だったなと思う。

最後は、どうしてもいんどだけと、山で悪夢を見るくせだけは、何となくした。長期山行になると思いたった。(縦走合宿でも叫んでみた。)

こういうことは冬合宿も?

おわり

70℃冬合宿の反省・と感想

9886024H

横山 勝丘

“両立の道は難しいか、努力することは美しい。”
— ビック・シガー

反省

今回、ちょっとショックを受けた。それは、高介さんに指摘されたことなのだが、“危険意識がない” “メリハリがない” ということを知らされたからだ。確かにその通りである。その通りであり、また、非常に大切なことであつたために、ちこころショックを受けてしまったわけだ。しかし、このことは、前々から言われていた気もするわけで、それか直っていないのは、これは性格なのかな— とも思うわけですが、絶対に直さねばならないことであり、言いかげの余地もないわけである。冬合宿を見ていてはと、断言するのは、ちょっとまずかしいか、いや、断言してみせようと思った、今。

感想

う、うつくしい。と思った。朝日に輝く白馬岳をみて、何かすごく大きな存在を感じ、剣岳をみて、いつか自分も、と思い、鹿島槍ヶ岳をみて、早くあの頂上したいと願ひ、富士山を見て、日本の美しさを認識し、自分たちのトレースを見て、小さいながらも素てきな人間を恋し、キジ跡をみて、ああ、夏合宿の残りのムチごシロ、70℃でかき氷を食べたいと欲した。冬合宿が下のしみで下のしみでたまらない。

98年度冬合宿



'98 冬合宿



ハローベイビー ♪♪
 下界では恋人たちが思い出づく、という
 人を愛するといふことに
 気がついた 今年もクリスマス



12/24 クリスマス イブ
 5:30 Box 集合
 石井政, 博多政, 茂, 川村, 若尾 car で送って
 もらう。事故現場で ~~若尾~~ 若尾にうけた。
 8:20 ゲート 出発 愛想
 10:30 扇沢
 11:35 T.S

山登りがこんなにはつらい日は初体験だ。下へ何度引き
 返そうかと思、下へか...。足が前に出なくて
 たいそうこらから下。下界ではクリスマス
 色があちろちろにありそうだが、ここは下界では
 味気ないホワイトクリスマスだ。とにかくはやく
 体調を回復してまどむに歩けるようになりたい。

花合

ハローベイビー
 手にとりてく愛を求めよう
 見つけてぬ愛を求めよう

Easy come easy go.

※
 実際には下
 界にいた原本
 使用している
 ため乱筆
 による誤り
 がある

25日 クリスマス
 4:30 起床
 6:45 T.S 出発
 7:35 一本
 8:30 大沢小屋
 9:25 テポ隊出発
 10:20 一本
 11:30 一本
 12:20 テポ地点着 (1950mくらい)
 12:50 アセロニ下山
 13:35 T.S 着

終始
 快晴

今日ほクリスマスだ。かなり冷えた。
 テポほ予想より登山が残念也。
 ホホ

ラッセルはなかなかいいもんだ。期待していた
 大便是、ちよこまかしか出ず、残念也。
 ジョント

ラッセルはつかれます。ヒキが一杯食べ
 られてちよこ幸せ。かぜのためテポ隊
 に出れず残念也。 ロク

かぜの影響で、調子が悪い。
 深呼吸をすると肺が痛い。咳が
 止まらず苦しい。特に笑うと咳を
 引き起すのでみんな笑わせないで
 下さい。稜線に出れず残念也。
 (あなたに会えず残念也。)
 カジ

石井さんへの言葉

“ 君は自信のない男はダメだよなあ。
過剰すぎてダメだね ”

~~君は先頭はいいし、後ろの人は
あんまり見えないからあきらめてよい。 内本~~

26日

荷上げ隊

4:00 起床

6:30 出発

7:15 第1テポ地着

12:10 第2テポ地着

12:45 “ 発(下山)

2:15 大沢小屋T.S着

カジとノックが下山。さみしい。

Fixを張るナカジとノックはカッゴよかた。

二人の~~カ~~分もかんはる!! 林太郎

今日は梶とノックの下山にはじまった。残念だ。

そして俺は風邪のため、テポ隊を見送る立場。無念だ。

でも、今自分に必要なのは、1日1時間でも早く風邪を

治すことだ。今日はぐすり寝て、明日以降かんはりたい。

梶とノックの分もかんはらう。 横勝

下山隊

- 4:00 起
- 6:35 発
- 8:00 扇沢
- 9:55 午一
- 10:20 .
- 12:00 扇沢
- 1:55 大沢小屋 T.S

カニと 1-7 を見送った。
 カニは 38度以上も熱があるが =
 弱さを加す 杖杖があるにいた。
 しかし、時には無理をしないことと
 大急ぎで下ることとわかった
 でしょう。
 しいさんおに会うとほっとする。

(川井)

27日 隘日 ①

- 4:00 起床
- 6:15 出発
- 7:05 第1テポ地着
- 9:10 第2テポ地着
- 12:00 稜線着
- 12:25 蓮華岳山頂着
- 1:35 針、木小屋 T.S 着

おと稜線にたどり
 行く。何だかんだと
 長い道がワレた。蓮
 華にたどり着くと又
 夕一ト。明日からの稜
 線に緊張がはれる。
 15

28日

- 4:30 起床
- 6:45 出発
- 9:30 針、木山頂着
- 10:30 スバリ岳手前
- 12:00 最低コル T.S 着

二ヶ隊(330 岸本)
 4:30 起
 6:05 Start
 ?
 9:40 回42 始める。
 10:55 スバリ岳
 12:30 T.S.

・最初はかすっていたが、徐々に晴れ出す。途中のFIXは緊張して、1か所か良かった。自分でFIXが長くなるようになった。更に充実するだろう。眺望は昨日にも増して良く、あはーという感じだった。明日がやはりまたあーす。横山勝上。


- Fix隊に出る。昨日つけてあったトレースが結構消えていたのには驚いた。プロ冬に続き二度目のFixで、学部のこと、自分の至らなさを知らせた。とてもいい経験になった。皆が無事通過してくれてうれしかった。明日も元気にうらあ!! 岸本

29日(火)

- | | |
|---------------|-------------------------------|
| ① 4:30 起床 | ⑤ 12:20 12:20 権池山荘 |
| ① 6:40 登 | 雪⑥ 12:32 山荘の天 |
| ① 7:35 赤沢岳 | 上に一本 |
| ① 8:35 鳴沢岳 | ⑦ 13:15 爺ヶ岳南峰 |
| ① 9:35 新越山荘 | ⑧ 13:35 〃 北峰 |
| ① 10:35 岩小屋米岳 | ⑨ 14:43 冷池山荘下 |

- 今日、結構長い行程だった。午前中快晴だったが、午後西の空から信じがたいスピードで雲が近づいてきて、あっという間に上空にすまぬ状況になった。明日から天気がいまいらしい。この冬一番の寒波が入ってくるのか。後続の東北大バスターはどうしているだろう。明日は鹿島槍ピストンをしてあわよくば下山にかかる。今合宿、今後どう展開するか。ところで来年は(明後日からは)、1999年、どういう年になるのだろう。もう大学の残りもあと1年ちょっと。今年も全くとってあつちのうらあ!!

来年はこういう時間の流れになるのだろうか。

疑問の多い文章になってしまったか。下山してヤリたいと
最後に決まろう。ギターを弾く。CDを買う。布団で寝る。
家に帰ってうまいもんをたべふく飯を。……


いヒ〜ン 今日もダルかった。天候悪化が
著しくて明日以降が不安だけどまああせり
もしよかないし、赤白テレビで見たい気もある。
色々揺る動くCLの内の内であった……。

115

30日(水)

5:00 起床

7:10 出発

9:50 鹿島槍ヶ岳山頂着

12:00 冷池山荘 T.S

。今日のヒートンは仲々激しかった。指先が
凍症になるのではと少し焦った。
強風、吹雪、凍る雪、顔面の痛み……。
冬の鹿島槍は厳しい。

どうして今年もあんなに明日を恐るのか。年内下山は
和か(可能な)伊那か(否か)? ……オマノ

ただか物足りないのは、下山したいという気持ちは……
けれど、早く下山したいという気持ちは
気持ち、一体何? とり敢て"明日は早く下山したい"
再びセーブ

3日.

- 5:00 起床
(Fix隊 川井、深沢)
7:35 本隊 祭
(8:30 本隊 Fix待ちか・出発 コル)
9:30 一本
(10:10 高千穂平)
10:30 一本
11:30 一本
(12:00 林道着)
12:30 一本
(13:05 ゲート着)
2:30 やなほ馬



鹿島ピストンが終わった今、もはや沈殿する必要はない。年内下山... ちよと寒いけど、これしかねーべ。

大晦日のミヤ。年末に働いている店員のお姉さんに1ヶし申し訳なきと感じつつも満腹のひととき。ありがとさん。

1月1日

今、宮中。とても幸せな気分。

今日のfix隊はルーファイかたかなかむむいかも。なか²おもろかった。

川井

今日は大みそかです。来年は世界が滅び
ます。私も滅びます。山登りもできな
くなるので今のうちにたくさん登っておき
ましょう。それでは世界が滅びるのを祈って。
麦谷

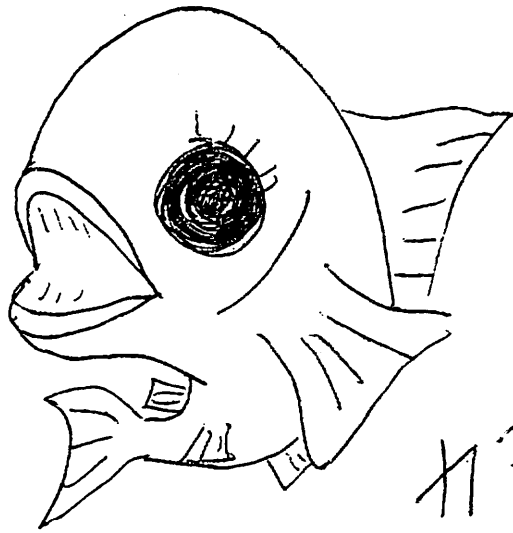
やっや、 やっホ、 _____
ま。ま。 まんこ _____
うあ、 づあ、 づあ、 ぞうあざな _____
野田

このテーブルは色々問題僕がたかい。
X3のおかゆりをエいそくしたり。
みえしるのおかゆりはできるかきいなり、
おしか店の人間た、下らきしてゐるな。

いゆー。 官の みるこん。 来年もよろしく。 (田)

心地良し 疲労感が全身を包んでいる
安心感と達成感、ゆく年くる年、
来年がまたいい年になりますように。

大木 信介



11月
99年!!

11月 - ベイビー

二人にはやく下山して来たのは
山に嫌われたからだ。330か.....

たはやく下山の縦走を卒業する

記念にニニに記す。

次はたてに長い事をやる

198, 12, 31.

俺の合宿は終わった。次を担

う3, 2, 1年生に全てを託して日
記を閉じる。

ありがとう!!

花谷

装備反省

大木ポポ

(反省)

x 竹ポール しゃぼん

→ 日大のポールをみならうべし
鹿島ピストンですごい必要性を実感した
ので多少金をかけても仕方ない。

x テント グンロップ
アライ

→ ポールの長さが合っていない

→ 元のふくろにもどらん!!

冬山はひもでしぼるべし

エスペース

→ 内張が違った大木のシ スいません

x MSR ヒート

→ 万全だと思ったが炎上一回 接続か?
火力の差

あとはよく分からん!!

x 登攀具

→ 1パーティ 15枚でOKかも

スリ-アーカーも1パーティ4コでOK

足りなければ個装で。

◎ 登攀要素の少ない縦走ならば限界まで減らすべし

x 個装 1リガネ

→ あんなもんいらん 個装でみんな持つて

x ショウゴ

→ フィルター付きのショウゴを使うべし

x 白ガス 使用料

4人 { 24日 1000ml (朝食なし)

25日 1200 (クリスマスごはん)

26日 1500 (夕食が12人)

12人 { 27日 1000

28日 1000

29日 1200

30日 1000

一番少ない 12人で1000mlの日が
一人 850ml くらいである。

《紛失》 竹ポール 全部
竹バグ x 1
ピナ x 1
ショウゴ x 1

x 夕 1回 1/2 使用 3/本 消費

(改良点)

x MSR → ブス板 改造 山を越えるブス板はない。鏡にもなるが
銀パンを2つ使用、当然火力アップ!!

x 夕 } → 予備日の分も減らす
日ガス }

x てるもす → 1テール x 2個 — 28 —

- × 竹バグ → 減らした 代わりに ピッケル スコップ 使用
- × Fixロープ → 減らせるだけ 減らした。使用 長さも 長さを 切った。
減らした分、Fix 隊は すばり せり エンビネーションが 問われた
- × シュリング → 腰 まで サイズ 使用
- × スポンジ → 吸収 の ぶん 70% の 布に 代えた。
こまめに 水バ の 水 拭き を 出来る ように した。効率 アップ
- × その他 → エッセン 関係 の 水、バ、調味料 と 装備 製を
各 ティム 指定 に した。非常に 分かり やすく、よかつた。

(感想)

フ冬に むきつぎ 装備 を 担当 した わけ だが、約 2ヶ月 間 の 準備 期間 が あた にも かか り ず “完璧” に ちどり つけ なかつ た の は 残念 であつた。特に ライト 関係 は ずいぶん な ところ が 多く、我ながら 不愉快 だつた。竹ポール も フ冬 で 反省 に あがつた にも かか り ず、創意 工夫 が 足り ず、使いた い 時に 使えな い という 最悪 の 結果 に なつた。多く の 反省 を 残す こと に なつた が、改良 方法 も 分かつた の で 以後、会 で 努力 し て い くべし。

反省 以上 に 改良 点 も 多かつた と思う (自決 自賛)。今回 の 合宿 に は かなり 気分 を 入つて いた の で、意地 づも 軽量化 し て やる と 思い 続け、個人 山 行 で いろいろ 試し な がら 今回 の 合宿 に ちどり ついた。エッセン 関係 は かなり 充実 した と思う の で 以後 続け て みたい。

また 登攀 具 も かなり 減ら した と思う。登攀 要素 の 少ない 縦走 を 減ら せば いい の だ。ピナ など は もっと 減ら せる と思う。しかし、これは ルート、そして 隊 の 実力 を 考え な ければ なか なる の で いづれ も 違ふ 結果 に なる。装備 係 は よく 考へ る ように。

結論：装備 係 は 孤独 だ。

「革 の 一騎 駈け」 を し て くれ

気象係の反省・感想

深沢遊

70L冬ではなまけな気象係だったが、今回は事前に十分な資料を集められたと思う。ラジオの層波数も確認にいったためスムーズに天気図を書くことができた。

2年生にとつてはじめて書く高層天気図だったが、いろいろ問題が残ったように思う。朝の出発前の忙しい時間ということもあり、その時点ではメモ程度にしかなき込めることができなかったが、それだけでは保たないので、この場でサッと仕上げられる能力を身につけよう、少なくともその日の夕飯のエッセイのときにピコをみつけて仕上げようとしたかった。また、高層天気図の読みかたについても、僕自身も付け焼き刃だったが他の2年生は全く分からなかったのかもしれないと思う。高層天気図を勉強することになり地上天気図についても分からなかったは子が多いことか分かったように思う。野田さんに読んでもらえばいいと思うのかもしれない、一人一人しっかりと知識を持ってほしい。利用の仕方も知っていれば利用しやすい天気図が描けたらう。以上のことから、来年の冬山セミではテープを使った練習と、その利用しかたの説明の必要性を強く感じている。やはり実際にやってみることにしよう。また、高層天気図は夏季にも報送しているようにあるので、夏のうちに練習におくのもいいだろう。

冬合宿 ESSEN (下界) 感想と反省

日高

反省 準備の時、やる事が多くてわけがわからなくて説明があいまいだった時があった。一つ一つが大量で種類も多いので大体でもいいから実際に準備をする前に順序を決めてあげばもう少し余裕をもって準備できた。と思う。(けっこう細かい所まで)

指示も丁寧で適格にはできなかった。ESSENはとて時間がかかるのでもう少し頭を使えば時間を短縮できた。

後は岸本のを見て下さい。岸本の反省は俺の反省です。

感想 栄養分などを考えてやっていたのだがとて難しく結局はメニューの開発と軽量化しかできなかった。メニュー開発は失敗した。

アマネギ、ホウレン草などは挟いためるとかなり軽く小さくなるのでアマネギならアマネギだけで水分を飛ばした方がかなり効率が良いので徹底的にいためよう。

乾物はとて軽いので使い道はかなりのある。使う種類によつて腹もちも味も変わってくるので、これから石研究しよう。今回はけっこういい加減だった。

栄養分とかは成分は忘れたが、ホウレン草、ニンジンがとて栄養豊富で今回は特に多く入れた。あと、あめなどのL-シロコでもビタミンCなどがとて簡単にとれる。あめの種類は多い方がいい。

人間の体には必要な栄養は10日前頃分は蓄えられているらしい。L-シロコの種類を増やしたらいいだろう。

ただ、去年の冬合宿にあった、ぬり梅などのオアシロコは探せば良いものが見つけられる。今回は努力が足りなかったのと他の事に命を取らしていたのは反省です。

最後に、ESSEN係は実際に作ってみるのが大切だと思った。ヤミカにはやはりすごい。約半分の質量になり、体積は1/5以下になる。山でうまい飯、柔な飯を食おうと思えば時間をかければかけるほど良い。というのがわかった。量とかは考えればわからんから実際に作るのがとて早い。今回、自分で確かめられなかったが、実際に食った人達は良かったみたいなので安心した。

会計・障害報告

収入 $210000 + 25916 = 235916$
(合宿費15000×14) (7ヶ月合宿料)

支出

食費	156439
装備費	35998
医療費	2250
交通費	23840
使途不明	-9
	<hr/>
	218518

収入 - 支出 = 17398円

反省・感想

早め早めの会計・障害かてまかした。ギリギリに
ない車をたかたりにしてしまつた。

帰りの交通費は安くかてまかした。

冬でも扇沢の電話かてまかえるときがある。

冬合宿の感想

はらだ りょうすけ

十、亮

四年目の冬合宿が終わった。4年間通して山に登り続けた感慨とリーダーの責任重さで、他のもののようにあっさり終わってしまったという気持ちは微塵もなかった。大谷原から下界への林道を歩きながら、大きな安心感と達成感にひたり、涙がこぼれそうだった。1年生の冬合宿で坂巻へのトンネルを抜けながら4年生がうかべていた表情を思い出した。

四年間ひとつひとつを思い出すと本当に長かったと感じる。多くの仲間を得、目標にすべき多くの人に出会い、時には後輩すら師と仰いでやってきた。不安と不満だけをかかえて大学に来た田舎の高校生が、いろいろな人に会い、話をし、少しずつ自分のことや周りのことを考えはじめた過程がそこにあったのだと思う。そして今、この毎日の充実感！

山に登り続けてきたのは

そこに山があるからではなく

やはり

人に出会えるから

ともに目指す仲間があってこそ

頂きはその意味をもつ

1998・12・30 18:40 冷池TS

[一人雑感] より

完 十 亮

最後にいろいろと指導して下さった先輩たち、見守って下さったOBの皆さんにお礼を申し上げたい。それから、山を100倍楽しくしてくれた後輩たち、留年はするなといていたけど（ごめんなさい。してしまいました）山を認めてくれていた両親に、そして何より花谷に、ありがとう。これからもよろしく。

冬合宿をふり返って

<まが反省>

最後の合宿であるにもかかわらず、前々日の夜から突然熱が出て完治しないまま合宿に出る事になった。そのための最初の2日間は食欲がなく、全然馬力が出ずにみんなに迷惑をかけてしまった。精神力のなさを感じた。根性論は古くさい話だが、今回ほど根性のなさを感じた事はなかった。

<冬合宿、今までとここからのSAC>

1年目(95年度) 今まで失敗続きの冬合宿が久々に成功。3折尾根・西鑛・槍・横尾尾根。すべてが初めてで天気も天利良く雪も多かった合宿だった。

2年目(96年度) 4年生2人、3年生0人、2年生2人に1年生が1人だった。今回はこの合宿が一番つらかった。霞沢岳～表銀座

3年目(97年度) 4年生0人、3年生2人、2年生5人、1年生8人。この年は天気が少なく隊も弱かった。中崎尾根～槍～横尾尾根。

そして今年。山域は一番北になり、雪も多かった。しかし、FIX少々の二人な言い方をすれば何だか「重い荷をかついでただ歩くだけ」の縦走であった。この傾向はこの4年間ずっと続いてきた。昨年度の南アルプス金山縦走もそうだった。結果はどうだったか。人間関係が崩れ、長期縦走の難しさを感じた。今でも心のしりりである。

長い日数をかけ、重い荷をかつげば、セマと体力がある大学生が15人集まればラッセルに終始する縦走ならいける所はないだろう。4年でサイクルの大学山岳部がこの手の山行に長けていたのは1人4年間の在籍していないで技術的に向上途中で会を離れてしまったからである。こういう山行はもう何十年前からやっている事だ。そろそろこういう事から離れるべきではないだろうか。登攀要素の多、ルータや隊を二隊に分けて一隊はバリエーションルートから本隊合流。または4隊くらいに分けて1つの山で合流(集中登山)など。個人の志向を満足させ、隊として1つの大きな成功を導く。ここからのスタイルも昔もそうだった山行をやっている人は多い。陰部臭い、などという自嘲けた言葉(口元に残った俺だ)が、ここからのSACを担う皆様にどうしても聞いてもらいたい。たよりに俺だけだ。

冬合宿反省と感想

野田

今日の山行の反省は、あまり思いつかない。強いて言うなら、反省がほとんど無いことが反省である。ということ。人間何やら欠点はあるもので、反省がないわけはないわけだ。物の所に条件はそろっているからか、知らない。反省を書くには日数が過ぎすぎている。山行中、天候がまずまず、雪が少なかった等があった。それに比べ、客観的に見れば、21日。視点が高度化しているというのには、知らなかった。

また、これについて、今僕に求められているのは、人間的にどうであるか、どうしているのか、ということになる。一庄の問題、というよりも、大学時代にはまだ、他人のつちのつち、少しづつでも、前進（？）を、感想。

冬合宿 感想と反省

豊谷

今日の合宿の個人的反省としては、まず第一に、周邪を合宿持ち込んだことであろう。自分としては何ともないと思っていた。個人個人のことが、合宿という団体行動の場には、いかに影響を与えるかを考えると、大変申し訳ないと感じる。それから、1回生、2回生に対して、注意たり、助言たりを自信を持って与えることができなかったことが反省として挙げられる。これはやはり自分に対する自信の不足からくるものかもしれない。それ以外にも、性格として自分のこととして考えないという致命的な欠陥もあると思う。関わりを持とうという意志、他人に対する思いやり、つまりは愛を持たなければいけないと思う。そのようには、プロ意識でしか、本業に下回生に対して面倒を見る気持ちには、湧かなくなつた。自分には、冬合宿が成功して、とてもうれしかったが、しかし、自分の罪には、やはりそれだけのものがあって、心から喜び、ということができなかった。そんな自分を苦々しく思う。

冬合宿 反省と感想

大木 博之

- ・あれ!? もう終わり、やったの? というのが正直な感想。2年は何かと仕事が多く、装備担当の俺はずっと軽量化に力を入れていたし、Fixに出勤できるから何かとトレーニングにも力を入れた。しかし結果的にはアッサリ抜けてしまい、物足りなさを感じた。気合の空回りという具合だ。でもそれは全体の力が上がってきたことだと思う。
- ・これから俺たちの気合が空回りしないような“おもろい”ルートを登りたい。
- ・またゾクッとするほど感じたのが『事故』の存在だ。我々が下山した数日後に同じルートで実際に起きているわけで、我々も力がつてきた今が一番事故を起こしやすいと思う。安定した力と現実をしっかりと見据える実力をつけていきたい。

以上

Date

No.

反省・感想 岡本

冬合宿中1回もFix隊にならなかった。もうちょっと積極性が高い。ふらふらかかっているときこそ地図、コンパスを使わずにはいけない。通らぬ所を直ぐに歩いてしまった。

前半がなかなか前に進まなかった。稜線に出たらさらに進まなくなるとか、思っていたらさくさくエイクと冷池まで来てしまった。2.あ、という間にBOX。全体の流れはここのようにあ、けなかつたか? 後半の密度の濃さにはびっくり。ふらふらの鹿島槍は凍症になってしまった。なまけな。

また、ああいう天気ではそうとういいコンディションでない場合は絶対行、てはならないと思った。

-36-

冬合宿の反省・感想 深沢遊

今回の合宿で一番悔やまれているのは、1日遅くしてしまったことだ。屏風の谷から冷池まで一気に行ったあの日、爺の登りで突然体が言うことをきかなくなったり、その日以来下山するまで体が回復するどころかなかった。これは肉体的なもの以外に、「え？あの吹雪の中に突っこむの？」という精神的な面で知らず知らずのうちに体に制動がかかっていたのではないかと思う。今回の合宿でまた経馬値が上がり、今度はあのくさいの吹雪では精神面からの制動はそれほどこ強くなかったと思うが、あの嵐のなかの行動は好条件が重なったためにできたのだということを忘れないようにしたい。もう一つの反省として凍症に陥ってしまったことが挙げられるが、自分の中でどのくらいで凍症になるのかは合宿で知ったので、それはそれでいいと思う。この経馬を次からに生かしたい。

以上のような反省はあるが、合宿は実働期間内で終わったし、おぼろしい景色や吹雪の中での行動と重なった濃い内容で充実したものだ。そのせいか時間の流れが速く感じられ、あとというまに終わってしまった。いろいろ感想はあるが、吐き出す必要はない。胸の内にしまっておけばいい。自分の足元から日本海へ続く山脈の美しさや、吹雪の中鹿島槍の山頂に立ったときの感重さは、おろと忘れたいだろう。

冬合宿の反省と感想

松寿 林太郎

山岳会一年目の最後の冬合宿が終わった。

ア、という間に過ぎたという感じがする。

夏合宿が不完全燃焼で終わった分今回の

の合宿は自分にと、て得られた物が多いと思われ、充実した山行だったと思う。

そして、上級生の姿を見て、これからは自分達がその立場にな、ていくことを感じた。

それにしても、冬の山は美しくそして厳しいと思った。蓮華や針ノ木から見た360°のパノラマそして、吹雪の中の鹿島のピストンは必死だった。

また、冬の山は小さなミスが本当に命取りになると感じた。またまたテント内での生活技術や衣服の調節など甘い点が多くあ、た。体カモ足りない。

冬合宿の反省と感想

横山 輝生

一番の反省は、体調管理を怠ったこと。かせのため下山

というのは自分が情けなかった。合宿前の体調管理という

事を、前前だが、しっかりと頭に入れておきたい。

中途半端に終わってしまった。これが自分の今の実力かと考え、

とてもくやしかった。この気持ちをおからにつなげていければ

と思った合宿だった。

おわり

BOXに置きたれた7-7口に
7-7られし物語……



中島■哉の心の叫び



作者不詳 (あたりは77にいる)

「たつや」という男らしい名前、僕は今まで好きだった。この名前をつけてくれた、父さんと母さんには顔射、じゃなくて、感謝している。なぜ「すきでした」か？だって？あまり人には言いたくはない。でも君には、君にだけは話しておきたいんだ。そうすることで少しは僕のブルーな心も晴れるかもしれないから……。

半年前ぐらいから、そう丁度、新人合宿のころだったかなあ。僕が自分の変化に気がついたのは。きっかけは誰かのこの一言だった。

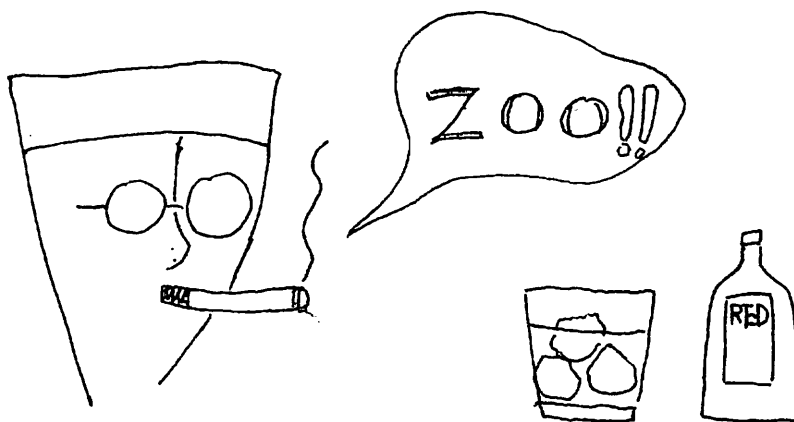
「俺さー、最近朝だちこないんだよねー。」

なーに下らないことを朝からいってんだ。と初めのうちはたいしいて気にかけていなかったんだけど、ふと（自分はどうかな。）って考えてみると最近の「もうひとりの僕」は元気がない。きわどいポルノを見ても、道行く女子高生がたまにチラリと見せる純白のそよ風に出会っても、命が通わなくなっているんだ。

ああ思い出すよ。つい2、3年前までは毎日のように命のしぶきをほとばしらせていたものなんだ。まるで俺の溢れんばかりの情熱が、恋を求める一途な叫びが、熱い熱となって身体の中をかけ巡る、そう、稲妻のように。

そんなことを考えながら伊那のうんこくさい道を歩いていると、伊那唯一のソーブランド「白樺209」の前に来てしまった。財布の中を除いてみると回数券がまだ三枚ほど残っている。今日は^{ピーツ}子を指名しよう。そう心に決めてさびれたドアをノックした。しばらくするとドアの向こうから「ホーリーー！」と叫び声が聞こえてくる、マダムの声だ。僕はいつも通り「サマナーー！」と合い言葉を叫び返す。道行く人がこちらを振り返りちょっぴり恥ずかしい。ドアが開かれマダムが顔を出す「あーら！辰哉ちゃんじゃな

い♡」いつも通りの厚化粧になぜか心が和む。マダムは10年前、夫に逃げられ女手一つで二人の息子を育ててきた苦労人だ。今は二人の息子も自立して立派な社会人になっていると言う。マダムは僕を初恋の人にそっくりだと言っていつもほかの客より優しくしてくれる。僕がここの店をひいきにして月に何度か通っていたのは、もちろん女の子を抱くためというのもあるけれど、このやさしいマダムに会うのが楽しかったからだ。マダムと他愛もない世間話を交わしてから、僕は壁に貼ってあるこのお店の女の子の顔写真つきのリストに目をやった。「^{ピー}子」この子が今日の僕の目当ての子だ。僕はマダムに「[■]子ちゃん来てる？」と聞いてみた。するとマダムは「あ、[■]子ちゃんね、あの子かぜひいちゃったみたいでネ、ここ二、三日お休みなよ。」と本当に申し訳なさそうに答えてくれた。お目当ての女の子がいなくなるとほかの子を選ぶ気にもなれず、帰ろうかと考えているとマダムは僕の思考がわかるのか、「[■]哉ちゃん、もう帰っちゃうの？せっかくなんだからほかの子で遊んでいってよ。一昨日入ったばかりの新人の子がいるんだけど。」と言ってマダムは一枚の写真を僕に見せてくれた。僕はその写真を見て我が目を疑った。「ナナコ」とその写真には書かれていたが、写真の中の女の子は1週間前別れたばかりの美羽だった……。 <次回に続く>



編集後記

いろんなことに手を出し過ぎて、最近少々
オーバーヒートぎみ。しかし忙しいってのはいいもん
です。ヒマの百借はよい。

(15)

春眠暁をおぼえず”

桜になりたい……。

(16)

ヒマばかり忙しいのかよみから
ない時期です

(17)

NESCAFI

君が前の彼氏にしたキスの回数
なんて俺が3日でぬいてやるぜ

— デューク・マクケンス

1999年4月

編集: 松本

印刷: 松本

発行: 富山岳会

表紙: 大木

裏表紙: 横山